



2023年3月2日

日本鉄道労働組合連合会

ジェイアール・イーストユニオン 第9回中央委員会

## 魅力と信頼のある組織を築き、仲間の総結集を図ろう



ジェイアール・イーストユニオンは2月8日、東京都内において第9回中央委員会を開催し、2023春季生活闘争をはじめとする当面の活動方針を確立した。当日は、一部の構成員がオンライン出席となったが、多くの中央委員・特別中央委員が現地に参集し、対面での緊張感ある中央委員会となった。

執行部を代表し挨拶に立った菅野一位中央執行委員長（JR連合副会長）は、「施策が次々と打ち出される中での現状を見れば、社友会が社員の気持ちを繋ぎ止めておくことはできないのは明らかだ。企業には健全な労働組合が不可欠であり、我々の組織に組合員を増やすしかない」と危機意識を共有し、今次春季生活闘争についても「賃金や労働条件は団体交渉で決めるもの。この間の施策実施に伴う生産性向上も加味して賃上げ要求を行い、しっかり会社と交渉したい」と強い決意を述べた。

JR連合からは政所大祐事務局長と相良夏樹組織・政治局長が参画した。代表して挨拶に立った政所事務局長は、「最近、情報発信の強化に努めている。30周年記念行事もHPやSNSで情報発信した。ぜひこれらを活用してイーストユニオンの理解者を増やし、ネットワーク構築と組織活動に注力して欲しい」と要請した。さらに今次春季生活闘争について、「他産業では人財の囲い込みに躍起になっている。産業政策の面から原資を獲得する取り組みも行っており、しっかりと賃上げを求めていこう」と呼び掛けた。

議案については、「安全の確立に向けた取り組み」「民主化闘争組織強化・拡大の取り組み」「2023春季生活闘争方針」「働きが

いのある会社、労働条件向上に向けた取り組み」等の当面する活動方針が執行部より提起された。

質疑では、4名の中央委員から、駅窓口縮小に伴うお客様対応代替措置に関する要望、民主化闘争にかける決意、春季生活闘争における満額獲得に向けた強い要望、会社施策が矢継ぎ早に打ち出されて混乱する現場の実情等に関する意見が出された。



執行部答弁の後、菅井正和事務局長が集約答弁に立ち、まず、「現場の意見は大切であることをあらためて実感した。施策が次々に出されるが、しっかりと現場目線の意見を言っていく」と述べ、「人財投資は非常に重要。人財獲得・育成の投資を求めていく」と力を込めた。さらに組織拡大について、「愚直に丁寧な付き合いを続けるしかなく、これまでのつながりを大事に、継続して取り組もう」と呼び掛け、中央委員からは満場一致の承認を受けた。

最後は、菅野委員長が力強い団結がんばろうで委員会を締めくくった。

